

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3072100484		
法人名	社会福祉法人 同仁会		
事業所名	グループホーム カルフル・ド・ルポ印南		
所在地 (電話番号)	日高郡印南町山口150 (電話) 0738-42-8080		
評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山市手平2丁目1-2		
訪問調査日	平成 19年 8月 30日		

【情報提供票より】(19年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 10人, 非常勤 6人, 常勤換算	9.5人

(2) 建物概要

建物形態	併設 / <u>単独</u>	新築 / 改築
建物構造	平屋 造り	
	1階建て	1階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(240,000円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,500円			

(4) 利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	17 名	男性	4 名	女性	13 名	
要介護1		1 名	要介護2		7 名	
要介護3		7 名	要介護4		2 名	
要介護5		0 名	要支援2		0 名	
年齢	平均	80 歳	最低	59 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	国保日高総合病院 芝歯科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ゆったりと過ごして貰える様にスケジュール等をあえて定めず、利用者一人ひとりのその日の希望に合わせて気持ちの良い時間を送って貰っている。犬を飼っており、利用者は犬との散歩を楽しみにしている。また、実りの秋を目前に稲刈りを楽しみにしておられ、新米が食卓を賑わすのも職員・利用者共にわくわくする思いで心待ちにしている。次々と繰り上げられる「楽しみごと」から管理者・職員のパワーと意気込みが感じられるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>改善課題である地域との交流について、意識して取り組んでいて、その写真と共に記録して。また、地域の方々にグループホームを理解して貰えるよう「認知症教室」を開催し、相談や問合せを受ける等地域との交流に繋げている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>会議で話し合い、それを管理者が集約する形でまとめ上げた。昨年度の評価同様に管理者・職員の日々の取り組みの見直しの機会となっている。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では、利用者やホームの状況報告に加え、昨年度からは外部評価の改善課題についても議題にしている。共に方策を考えてもらい、今回、休耕田をかりて稲作に挑戦している。また、地域の協力を得て取り組んでいる。秋の収穫後は皆で新米を味わおうと楽しみにしている等、地域の資源を活用した取り組みをおこなっている。</p>
重点項目 ③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>苦情受付窓口については掲示して家族に知らせている。家族からの意見・不満・苦情としては挙って来ないが、今後はより積極的に意見を出して貰える様に働きかけ運営に反映させていく取り組みが望まれる。</p>
重点項目 ④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>法人において地域の方々と共に手芸・書道などのサークル活動を行っていて、ホームの利用者も参加して作品作りに取組んでいる。また、地域の文化祭にも出展している。稲作については、地域の農家の方々より様々な指導・強力など得て取り組む中で交流の機会も増している。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でその人らしい暮らしが継続出来るように支援していこうという理念を、わかりやすい言葉で事業所独自の理念としてつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念である「ゆったり、満足、自分らしく」を申送りの度に、説明しており、理解を得られる様に話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域交流を深めていく方法として3月と8月に「認知症教室」を開いている。公民館で認知症等に関するパネルディスカッションの開催や、地域文化祭に利用者の作品を出展する等、地域の方々との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を理解し、作成にあたっては職員の普段の声を反映させている。評価を機会にサービスの向上について話し合う等、改善を活かして行くように取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、参加者は家族・利用者・民生委員会長・町の民生課長・ケアマネージャー・管理者が集まり、近況報告や改善に向けた取り組みの提案、検討を行っている。また、休耕田を利用した稲作を実施する等の取り組みが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	電話等で度々情報提供し意見をもらい質の向上に向けた努力をつづけている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	金銭等は毎月明細を送り報告している。職員の移動等は面会の時に紹介している。定期的に発行していた施設便りの発行は、個人情報の関係から止めている。	○	施設便りは、面会に来れない方のためにも、記事の内容や掲示板の利用等を検討されることを期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や苦情等を受け付ける体制は整っているが、家族等からの意見や不満、苦情等は寄せられていない。	○	ご意見箱の設置や、面会時の声かけ等、意見等が表出しやすくなるよう積極的な工夫をし、改善につなげるよう期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職が多い時は、利用者が馴染む間もないことがある。管理者は利用者と馴染みの関係となっていて、利用者のダメージを防ぐための配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム連絡会の研修に月1回参加している。また、法人等による内部研修を開催し職員育成に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会のネットワークがあり、日常的に電話やファックスを利用して情報交換等連携が図られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染むよう家族等と相談しながら工夫している	安心して施設を利用していただくために、家族と一緒に泊まっていただく等、徐々に馴染むようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者に調理の味付けや、調理方法など教わりながら楽しく調理している。趣味や娯楽についても利用者が得意とするものを指導してもらい一緒に楽しむなど、共に支えあっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時、入所前に本人家族と話し合い、生活情報を集めている。食事では肉がだめな利用者には野菜や魚を出している。入浴の日は決まった日に入るのでなく、入りたいときに入れるように、利用者の希望を大事にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や本人の希望を入れてプランを立てている。今年より、その日の変化に応じ決め細やかに対応出来るような職員体制を取っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者一人ひとりに合った介護を検討すると共に、その日の状況に即し行っている。利用者の変化があればいつでも見直すようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の要望に応じ外出、外泊、受診など希望の時に職員が付き添い支援している。また併設施設の開催するクラブ活動の編み物や書道等に通ったり、柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医や係り付け医の利用は、希望に沿って医師と連絡を取りながら複数の医療機関を柔軟に利用しており、職員が付き添って通院している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアに関しては、ホームの役割等を説明し、家族や本人の同意を得ている。看取りについては管理者が別体制で対応する等方針を話し合い、共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	新任教育、認知症の理解、マナー研修などで、プライバシーについて、人格の尊厳も含めて研修等で徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者の希望に極力沿っている。一日の日課はなく散歩、カラオケ、買い物、犬の散歩等、希望による自由な時間割りで、対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者と相談しながら決めている。調理については下ごしらえや、味付け等可能な部分で手伝ってもらい、職員と一緒にしている。また、利用者と職員皆で、おやつ作りを楽しむ事もある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日時を決めず希望のあるときに入っている。入浴時間がそれぞれ異なるが楽しく入浴が出来る。安心感を持ってもらうため利用者に合わせ職員が付き添う等支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	数学の先生や、編物や音楽、農作業が得意な方等、一人一人の力が発揮出来る様、十分な配慮の中で支援している。楽しみごとに関しては、さらに個別的に支援出来る様に取り組んでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者一人ひとりにその日の希望に添って散歩・買い物等日常的に外出の機会が持てる様支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りを徹底する中で、利用者の安全を確保し日中は鍵をかけずに対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	所轄消防署の協力により、法人内での避難訓練を行って居り災害時の職員の分担や手順など決めている。立地的に消防署が近く、連携が充分取れている。今後は、運営推進会議などを利用して地域の協力が得られる様働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日を通じた一人ひとりの食事や水分の摂取状況を記録し、職員全員が状態を確認し把握しているが、献立を作成する上での栄養バランスなどについて、点検の機会がもてていない。	○	法人等の協力により栄養士の協力を得られる様であれば、カロリーバランスに関して定期的に専門的な観点からアドバイスを受ける事が望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は居心地良く過ごせる様に明るく暖かい雰囲気、季節の野花が所々に飾られ、利用者は夫々にゆったりとした気持ちの良い時間を過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力により居心地良く過ごせる居室となっており、利用者ごとに好みの物を置いたり、職員と共に作った手芸作品や手作り人形などを壁に飾ったり和めるような工夫がされている。また居室の表札に利用者本人の出身地の地名を付けて表示する等工夫している。		